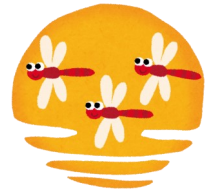


みたか環境ひろば 第13号

令和2年10月1日号



市立小学校全15校にある学校農園

人と自然が支えあい、緑豊かな公園都市の創造をかかげている三鷹市。環境基本計画の施策の一つに「都市農地の保全・活用」が掲げられています。杉並や世田谷に隣接する近郊都市ですが、中心地に耕作地が残り、265戸の農家の方々が新鮮な農産物を市民に提供している都市農業も盛んです。そして、1992年から始められた「学校農園事業」によって、市立小学校全15校に学校農園が整備されています。



三鷹市教育委員会が、JA東京むさしと協力し、学校近くの農家を選び、この三者が覚書を交わして、子どもたちが営農に参加し、実地指導を受けながら農作業を体験する場を提供してもらっています。

栽培する作物や作業内容、実施期間などは協力農家と学校で話し合い、種や肥料の用意や基本的な肥培管理などは農家が行います。教育委員会は収穫物購入費、指導謝礼等を利用料として支払っています。

学年ごとに作物の種類は異なり、生徒たちは、学校から畑に出向いて種まき・植付けと収穫を行い働くことの喜びや自然との触れ合いなど体験しています。



多くの学校農園では、近くのJAの青年部員や、PTA役員だった先輩農家の方が準備や指導にあたっていき、このような活動を通じて、給食の材料も地元産の新鮮な野菜が提供されるようになるなど、地域との交流の輪も大きくなっています。

学校農園を始めて28の歳月、子どもたちから元気をもらい、先生も農家の人も元気になり、三鷹の自然環境「農のある風景」を守っているのです。（前田）

次世代に向けての『環境と防災』・『安全と安心』



今年の夏も暑く、熱中症による救急搬送人数が年々増加傾向です。

全国に先駆けて関東甲信地方では、気象庁・環境省が熱中症警戒アラートを発信しています。『気温・湿度・暑さ指数』で予測をし『命を守る行動を！！』とホームページ等で発信しています。次世代へ向け地球温暖化対策に向き合う重要性を一人ひとりが感じなければなりません。

多くの企業が持続可能な開発目標（SDGs）に向け、取り組みをしています。

トヨタモビリティ東京は、SDGsを目指す姿として、お客様・地域の方々・社員とその家族、みなさまの笑顔のために地域環境の基盤があり、人類社会、そして経済が成り立つことを念頭において活動を推進していくことを本気で取り組んでいます。

しかしSDGsの目標は世界的なものなので、従来どおりの取り組みでは効果が弱いため、強化していく必要があります。SDGsの理解を深め、効果を意識して取り組みをレベルアップしたり、新たなことに地域全体で取り組むことが必要だと考えます。

次世代に向けてのモビリティは、水素を燃料とした自動車、災害時に電源供給車として使用できる自動車、自動ブレーキやアクセルの踏み間違い抑制装置などを搭載している安全性の高い自動車など、環境保全や防災、そして交通事故件数減少に繋がります。モビリティ革命（Maas=Mobility as a Service）が現実化される次世代に向け、可能な限り実行したいと考えています。

（トヨタモビリティ東京三鷹野崎北店 渡邊）



震災用井戸

私の家の片隅に、約80年前に掘られた井戸があり、私もこの井戸で育ちましたが、まだ三鷹市では水道が普及されていない時期で、ほとんどの家が井戸を使っていたものと思います。この井戸の水温は1年間を通して約17℃程度ですから夏は冷たく、冬は温かく感じる温度です。

三鷹市では、総務部防災課と生活環境部環境政策課で、井戸水の水質調査を行っています。

防災課の検査項目は、一般細菌、大腸菌、亜硝酸態窒素、硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素、塩化物イオン、全有機炭素、味、臭気、pH、色度、濁度の11項目。

環境政策課の検査項目は、気温、水温、外観、臭気、pH、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素、ふっ素、ホウ酸、1, 2-ジクロロエチレンの11項目。

両課あわせて22項目、重複する3項目（臭気、pH、硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素）を差し引いて19項目となります。

防災課では、毎年、約40か所の震災用井戸を対象に、緊急時や災害時に生活用水として使用できるかを水質調査しています。（水道水の検査項目の一部ではありますが、そのまま飲料水とはなりません。）

環境政策課では、5年に1回、市内にある井戸約120か所の水質調査を実施しており、その結果、環境基準を超過した井戸や、基準は超えていないものの数値が高い井戸を30か所選定し、毎年経年変化を確認しています。

震災等で水道が出なくなったときには、震災用井戸のマークのある家に行くと、生活用水が使えるかもしれません。この“震災用井戸”をぜひ覚えておいてください。（鈴木（弘））



★震災用井戸の看板★

新型コロナウイルスと河川のごみ問題

「私はウイルスです。身体の大きさは、1ミリの千分の1ミリの、そのまた百分の1と極めて小さく、千円札紙幣で有名な野口博士も私を発見できませんでした。わずか100年前には、疫病の研究者達は、私達ウイルスを見ることもできなかったのです。」

古くは、奈良時代。ウイルスによる疫病（天然痘）が流行しました。大災害、大飢饉など、相次ぐ国難に見舞われた聖武天皇は、仏にすがることにして、多くの国家予算を使って大仏を建立しました。当時としては、高位の政治家や最高の知識人達が考えに考えた末の結論でしょう。

ウイルスと同様、ごみも厄介者、世界中の困りものです。

新型コロナウイルス感染症が世界中で拡大する中、マスクや手袋などの「コロナごみ」が問題となっています。世界の海では、マスクが大量に沈んでいるとのこと。

これは河川から流入したと考えられます。

河川を巡っては、ごみ問題だけではなく、近年は気候変動の影響か、大型の台風が発生しており、河川氾濫等の被害も問題になっています。

気候変動や、新型コロナウイルス感染症が問題となる中、環境面、防災面の観点から、私達ができることについて考えてみませんか。（川尻）



編集後記

熱中症、新型コロナウイルス感染症の影響により、近場で買い物等を済ませることが増え、あらためて三鷹市内の施設や、商店に注目している。

市は、商店街の活性化と、商店街を中心としたまちづくりを進めるための取組を進めており、例えば、商店街による街路灯整備（LED化等）の支援事業によって、市内商店街の街路灯LED化がほぼ完了しているとのことである。明るい商店街が形成され、安全安心、そしてCO2削減に繋がり、より魅力的な商店街づくりに貢献していると感じる。また、市内飲食店が厳選した登録メニューを、学生が自転車などで市民のご家庭へお届けする「デリバリー三鷹」が好評を博しており、多くのメディアにも取り上げられている。今一度、三鷹市内の商店の魅力を再発見してみたいはかがだろうか。（平澤）

次回の発行は令和3年1月の予定です。

発行：みたか環境活動推進会議
（愛称 みんなの環境）

連絡先：三鷹市生活環境部環境政策課
電話 0422-45-1151 内線2525

E-mail:kankyo@city.mitaka.lg.jp

本誌は、市役所、市政窓口、図書館、コミセンや市のHPから入手できます。